



# 第35回広島平和体験学習

昭和60年3月に平和の村宣言を採択して以降、『占冠村教育を語る住民会議』が中心となり、広島・長崎の惨劇を絶対に繰り返さず核も戦争もない平和な社会への願いのもと、市内の中学生を広島に派遣する『広島平和体験学習事業』を毎年行ってきた。昨年度は新型コロナウイルス感染症拡大により中止しましたが、今年7月27日から30日の期間で実施され、昨年参加できなかった生徒も含めて生徒9人・引率2人が参加しました。また、8月6日には、占冠村・占冠村教育委員会などが後援となり、中学生による報告会と平和を考える映画会が行われました。

この平和体験学習を通じて、生徒が学んできたことを育み伸ばして行けるのは私たち大人です。みなさんと一緒に平和について振り返ってみましょう。

**2年 高橋聡美**  
体験に行くにあたって実際に自分の目で原爆ドームを見て、どのくらい戦争が恐ろしいことなのか考えたいです。

**見学内容・体験内容**  
袋町小学校は爆心地から460mの位置にあり、原爆によって大きな被害を受けました。朝会のために外に出ている教職員・児童、約160人が亡くなりました。奇跡的に助かったのは、教職員1人・児童3人でした。屋外で裸足で遊んでいて靴を履くように言われた1人とたまたま遅刻をした2人が地下の下駄箱に集まったときに原爆が投下されました。

全体を通して戦争に対しての意識が大きく変わりました。戦争は恐ろしいもの、これが自分の思っていることでした。しかし、被爆体験講話や実際に原爆の被害を受けた建造物を見て、戦争は怖いだけでなく、その後の人生まで変わってしまうと改めて思いました。この先、この学習で学んだことを生かし、様々な人へ「平和の大切さ」を伝えていきたいです。

**2年 伊達結月**  
体験に行くにあたってプライベートで広島に行くことは無いと思うので、今回広島に行って貴重な体験をたくさんし、テレビだけでは感じきれない原爆の恐ろしさを学びたいです。

**見学内容・体験内容**  
袋町小学校は西校舎がコンクリートで作られていたの、外郭のみ原型をとどめることが出来ました。そのため被災者の救護所として利用され、被爆者の消息などが伝言として集まりました。原爆による爆風はどれほど強く恐ろしいものだったかがわかりました。西校舎の2階には、たくさんの折り鶴が供えられています。

全体を通して原爆の恐ろしさを実際に見て体験できてよかったです。また、当時活躍した人たちや今の国民の原爆に対する強い意志をたくさん折り鶴などから感じる事ができました。原爆の恐ろしさを詳しく知らない人はたくさんいると思います。これから私たちが伝えられる限りのたくさんの人に伝えていきたいです。

**2年 八木翔琉**  
体験に行くにあたって自分たちが経験したことのないことを実際に目で見てみたい。見学内容・体験内容 原爆ドームを最初に見たときに、当時の人々の強いメッセージが伝わって来ました。戦争を体験したことがない僕たちに原爆の悲惨さ・残酷さを最も伝えてくれたところでした。この学びを次に生かしたいです。全体を通してこのコロナ禍で広島に行けたことはとても貴重な学びの時間になりました。実際に被爆者の声を聞いて、とても悲しい気持ちになりました。それと同時に繰り返してはいけないという気持ちも生まれました。この気持ち、声を次世代に伝えたいです。

**2年 阿部彩花**  
体験に行くにあたって戦争についてよく知らないし、知る機会もあまりないので、広島を訪れて学びたいと思いました。見学内容・体験内容 広島平和記念資料館内の写

真や展示物を見て回りまわした。結構痛々しい写真もあり、原爆の恐ろしさを痛感しました。展示物の中で一番印象に残ったものは被爆した砂です。これは放射線を測るために採取されたもので、砂が入った小瓶がたたくと音がするので印象に残っています。全体を通して占冠では学べないことをたくさん学習できたので、とても良い経験になったと思います。被爆した建物の一部をお店の外装として利用したり、現在も広島の人たちとともに暮らしていることがわかりました。この体験をもとに平和を日々願っていききたいと思います。

**2年 奥田紗帆**  
体験に行くにあたって広島で起きた原爆の苦しさと悲しさを学び、次の世代へとつなげていきたいです。資料館などで細かく原爆のことを知り、報告会で伝えられるようにしたいです。見学内容・体験内容 原爆ドームを初めて目の前で見て、とても迫力があり、

原爆の悲惨さを物語っていました。爆心地から近いところにあるのに当時の形を保っているのがすごいと思いました。全体を通して広島で原爆の恐ろしさとかを学べてよかったです。被爆者の話は、すごく怖かったけど聞くことができてよかったです。原爆投下の記憶は、忘れたらいけないので、今回の学習で学んだことを、次の世代に伝えていきたいです。

**2年 ルックス 授那**  
体験に行くにあたって昔の人たちが犠牲になって教えてくれたことを、今を生きる私たちがしっかりと学び、同じ過ちを繰り返さないために、未来に伝えていかなくてはならないと思います。また、戦争は過去のことではなく、世界各国で現在も続いているので、戦争のことや平和のことをしっかり学んで、世界を平和にする方法を見つけたたいです。見学内容・体験内容 私はこれまで、戦争についてのテレビを観たり、本を





3年 井川結

●体験に行くにあたって  
戦争について学ぶことで、  
これからの自分の人生に何  
らかの形で生かせたり、命  
の尊さについて改めて考え  
られると思います。平和  
についての考えを深め、「こ  
れからの日本はこうなって  
欲しい」という思いを強め  
たいです。

●見学内容・体験内容

2日目の被爆体験講話で  
は、実際に原爆被害にあつ  
た白石さんから、原爆の被  
害の大きさや外へ出るこ  
への恐怖、被爆した方への  
差別などの話を聞きました。  
講話が終わってからガラ  
ラスの傷跡を見せてもらい  
ました。本当に被害が大き  
かったんだと痛感しまし  
た。どのお話もとても勉強  
になることばかりで、あつ  
という間の1時間でした。  
●全体を通して

自分の目でいろいろな建物  
を見て、他人の命を奪って  
しまう戦争は二度とやっ  
てほしくないと改めて感じま  
した。そして広島に行つた  
ら学びたかったことがたく  
さんあつて、広島に行くこ  
とが出来てよかったと思ひ  
ました。

3年 石塚聖

●体験に行くにあたって  
直接行って、戦争のことを  
学びたいと思いました。広  
島に行つていろいろなこと  
を知つて、それをみんなに伝  
えたいと思います。

●見学内容・体験内容

戦争のせいでたくさんの人  
の命が失われてしまい、本  
当にかわいそうだと感じて  
ました。被爆者の話を聞いて  
悲しくなり、原子爆弾の怖  
さを改めて知りました。し  
かも戦争中の生活はご飯は  
少なく、不自由の中で頑張  
つて生きてきた人はかわい  
そうだと感じました。なの  
で、今は食料がたくさんあ  
るけど、好き嫌いをせず生  
きていきたいです。

●全体を通して

原子爆弾が落とされたのは  
日本だけなので、もし大人  
になったら世界中の人に知  
らせたいです。こんな貴重  
な体験をさせていただきあ  
りがとうございました。

3年 堀江風仁

●体験に行くにあたって  
どうしてこのようなことが  
起きてしまったのか、そし  
てどうしたら良かったのか

知りたいからです。

●見学内容・体験内容

被爆にあつた白石多美子さ  
んのお話を聞いたことが印  
象に残りました。理由は  
『私は被爆者です』と言  
うと周りの人たちに『病気が  
うつるから近づかないで』  
と言われて、みんなから避  
けられて一人になってしま  
った』と聞いたからです。  
実際は病気なんてうつらな  
いののに、決めつけられて  
てもひどいと思いました。

●全体を通して

今回の平和体験学習を通し  
て、戦争は絶対やってはい  
けないものだと思ひまし  
た。なぜなら、戦争が起こ  
ることによって、たくさん  
の人たちが亡くなっている  
からです。そして原子爆弾  
は人を殺すだけでなく、人  
間関係をも狂わせるものだ  
と学びました。これからも  
戦争の無い平和な日が続  
いてほしいです。

※掲載した内容は、8月6日  
に行われた平和体験学習報  
告会並びに「第35回広島平  
和体験学習実施報告書」の  
内容を抜粋して掲載してい  
ます。

引率者(教諭) 竹澤恵里加  
今回の平和体験学習では8  
月6日の式典への参加はでき  
ませんでした。広島市内の  
被爆建物を実際に見たり、被  
爆体験者から直接話を聴くこ  
とで、平和活動の大切さを実  
感できました。  
広島市内の被爆建物を巡る  
体験では、教科書やテレビな  
どの情報では知ることのでき  
なかつたその当時の様子を詳  
しく知ることができました。  
特に印象が強く残つた建物  
は、袋町小学校平和資料館と  
旧日本銀行広島支店です。  
袋町小学校は爆心地から4  
60mの位置にあり原爆によ  
つて大きな被害を受けまし  
た。百余名の児童、そして教  
職員のほとんどは外で建物の  
残骸処理作業をしていたた  
め、一瞬にして命を失いまし  
た。唯一、鉄筋コンクリート  
造だつた西校舎だけが外郭の  
み原型をとどめ、避難場所や  
救護所として児童・教職員や  
地域の人々の安否を尋ねる場  
となり、人々は床に散らばる  
わずかなチヨークで、焼けた  
壁に伝言を記する役割をして  
いた建物と知りました。  
また、旧日本銀行広島支店  
は、爆心地から380mとい  
う近距離で被爆しながらも、



被爆建物を利用した商店

その堅牢性から建設当時の姿  
を現在も残しています。被爆  
から2日後には銀行の支払い  
業務が開始され、営業不能と  
なつた市内金融機関の仮営業  
所が設置され、金融面から広  
島の復興を支えた史実を伝え  
る貴重な被爆建物であること  
を知りました。  
他にも強く印象に残つたの  
は原爆ドームから平和記念公  
園レストハウスへ向かう橋の  
欄干です。この橋の欄干は原  
子爆弾投下当時のままで残つ  
ているのですが、一部分が溶  
けた状態で残っており、爆風  
だけでなく同時に石をも溶か  
す高熱の熱線が帯を襲つた  
ことを教えてくれました。  
被爆体験者の講話では、小  
学校1年生であつた7歳の時

に爆心地から4km離れた学校  
の教室で、本を開いたときに  
被爆した白石多美子さんのお  
話を聞きました。爆心地から  
4kmも離れていて、75年経つ  
た今でも飛んできたガラスの  
破片による傷を残してしま  
う原子力爆弾の威力、そして戦  
争の真の恐ろしさは人の命を  
奪うだけでなく、たとえ生き  
残つたとしても人の心に深く  
大きな傷を残してしまうとい  
うことを教えていただきました。  
私は真の語り手にはなれま  
せんが『教え子を再び戦場に  
送らない』ためにも、多くの  
生徒が平和について考え、主  
体的に学ぶ機会を保障してあ  
げられるようこれからも尽力  
したいと思ひます。

引率者(教諭) 戸田真僚  
高校の修学旅行以来となる  
広島県への訪問。当時は9ク  
ラス約350人で行動してい  
たこともあり、詳細な内容は  
正直覚えていません。さら  
に、メインの行事が京都方面  
の自主研修だったこともその  
原因の一端でしょう。  
さて、そんな12年ぶりの広  
島訪問ですが、高校生の成長  
段階では感じることでできな  
かつた感情がありました。  
「原爆ドーム」はこんなに  
街の中心地にあつたわけ？  
被爆者の家族はどんな気持  
ちで「平和記念資料館」に遺  
品を寄贈したのだろう…。  
「呉市」に海軍の拠点が置  
かれることになったのにはこ  
んな理由があつたのか！  
など、それぞれの体験先で  
《当時の広島》と《現在の広島》  
を比較しながら、戦争の悲惨  
さや平和に対する願ひを感じ  
ることができました。  
その中でも一番身近に歴史  
を感じることができた体験  
が、まち歩きボランティアガ  
イドによる「被爆建物めぐり」  
でした。旧日本銀行広島支店  
や袋町小学校では、当時の様  
子が詳しくわかる資料やこれ  
までの広島史がわかる新  
聞記事、全国から平和を願つ

て贈られた折り鶴など、戦時  
中から現代までの人々の想ひ  
をつなぐ展示物を見ることが  
できました。加えて、資料館  
的な役割を担つていない建物  
の存在意義を大いに感じるこ  
とができたのも間違いありま  
せん。例えば、アーケード商  
店街にあるパン屋が実は被爆  
建物で、被爆部分を一部残し  
ながら営業をしているとい  
うこと。現在も営業している百  
貨店が、当時は被爆者の臨時  
救護所になつていたというこ  
と。普通に広島街の中を歩  
いていたらきつと気が付かな  
かつたであろう《身近な歴史》  
を感じることができたのは大  
きな財産になりました。  
コロナ禍という大変な時期  
の訪問になり、例年とは異な  
る動きの中でしたが、生徒た  
ちの主眼的に学びに向かう姿  
を見ることで引率者としては大  
変満足している結果となり  
ました。今後、各自が今  
回の平和体験を通して学んだ  
こと・感じた気持ちを大切に  
生活してほしいと思ひます。  
そして、それぞれの言葉  
で伝え、紡いでいってほしい  
と願っています。

